

～文学と古都～

日々の生活の中で忘れがちになりますが、京都には様々な文学と縁のある場所が多くあります。今年は、文学に関わりのある場所を実際に訪ねることにより、時代背景や作者に思いを馳せ、より作品に深く親しみたいと思います。

第1回 鴨長明と下鴨神社 講師 市東あや

(東洋大学大学院生・横須賀学院高等学校非常勤講師)

今回は下鴨神社の敷地内、糺ノ森の一角に位置する、河合神社をたずねました。鏡絵馬や美人水で知られる美人祈願の神社ですが、八咫鳥や少彦名尊を祭る由緒ある神社でもあります。



主祭神は玉依姫尊、初代天皇である神武天皇の母親にあたります。古事記では浦島太郎の原典ともいわれる、海幸山幸神話に登場します。

山幸こと火遠理尊（ほおりのみこと）は兄の海幸から借りた釣り針をなくしてしまい、それを探して海の底にある海神の宮へ辿り着きます。山幸はそこで海神の娘である豊玉姫と出会い、一緒に地上へ帰って

きました。

しかし出産の時に正体を見られた豊玉姫は海へ帰ってしまい、以降は豊玉姫の妹である玉依姫が山幸と生まれた子供の世話をしていました。その玉依姫と山幸の間に生まれた子供が、初代の天皇、神武天皇なのです。

(ちなみに豊玉姫の正体は大きなサメだったそうです。ということはその妹である玉依姫も、本当はサメだったのかもしれませんが……)

また、河合神社の境内には『方丈記』で知ら



れる鴨長明の庵も復元展示されています。

鴨長明はその苗字の通り、下鴨神社の神職の家系でした。宮廷歌人として宮中に出仕しますが、縁に恵まれずやがて出家。持ち運びできる小さな庵と共にあちこちを放浪する生活を送ります。車一台に乗せられるほどコンパクトで、しかも簡単に組み立てられる方丈庵の仕組みは、式年遷宮を繰り返す下鴨神社のお社に学んだ形だともいわれています。



『方丈記』には鴨長明の半生や無常観のほか、都で起きた災害についての記録も多く残されています。源平の合戦を始め、様々な出来事に行きあった鴨長明には、世の中が無常であるという考えが、とりわけ強く残ったのかもしれませんが。

二葉葵の季節には少し早いですが、春らしい暖かい陽気の中、のんびりと散策をすることができました。もう冬も終わりですね。

2017年3月25日
特定非営利活動法人
社会教育学会
ライフロングエデュケーションソサエティ
理事長 櫻庭 修



次回は、5月13日に
上賀茂界限を訪ねる
予定です。